

昭和36年に開学した愛知淑徳短期大学は家政科から始まり、38年に国文科、40年には英文科を開設しました。昭和44年4月から、家政科は家政学科に、国文科は国文学科に、英文科は英文学科に各学科の名称が変わりました。卒業生に学園の思い出を語っていただくシリーズの第11回は、第1回家政学科卒業生の戸谷ふみ子さんに登場していただきました。

大学祭実行委員会の初仕事は 広告取りでした。

高校は西区の商業高校で、卒業後は就職するつもりでしたが、父が知り合いの娘さんが短大に入ったという話を聞き、急に「お前もどこかへ入れ」と笑)。当時は予備校などありませんから、参考書を買ってきて独学で勉強をしました。両親から将来、役に立つからと家政科を勧められ、私も洋裁が好きだったので家政科の被服コースを希望しました。

入学後、勉強は高校の延長かと思うほど厳しかったですね。大学生という教科書を2、3冊抱えて通うというイメージがあったのですが、現実には毎日のように宿題が出て、大きな袋を抱えて通学していました。和裁と洋裁は講義中心で、実習は時間がないので、家に布と裁縫道具を持って入学してすぐ、大学祭実行委員会に入りしました。クラスから2人ずつ選

ばれるのですが、入ったらすぐに上級生から「広告取りに行つて」と言われて驚きました。11月に開かれる大学祭のパンフレットに載せる広告で、実際は前年にも載せていただいた企業へ「今年もよろしくお願いします」と行くのです。友人と名古屋トヨペットなど2、3社を訪問しました。

卒業後は、被服構成・実習を教えていた担任の今井和子先生に声をかけていただき、被服コースの副手、その後、助手として7年間勤めました。先生が授業をしやすくするためのお手伝いや秘書的な仕事をしました。



愛知淑徳短期大学第8回卒業生
(昭和44年度卒業)

戸谷ふみ子さん(旧姓：長井)

昭和25年生まれ。現在57歳。
家政科被服コース卒業後、副手、助手として昭和51年まで勤務したのち、結婚。洋裁の腕を生かし、息子2人の七五三のスーツなども縫う。現在は旅行が趣味で、妹さんと世界各地へ出かけている。



短期大学は当初、卒業式には全員が黒スーツを着用していた。これは助手時代で、今井先生(中央上)を囲んで。右から2人目が戸谷さん



7月、北海道への修学旅行で、青函連絡船の上で同級生と。左下が自分で縫ったブルーのスーツを着た戸谷さん。



2002年12月開催のクラス会にて

大学祭実行委員会主催で伏見の名宝会館にあったダンスホールで、愛知学院大学のスウィング・オールスターズを呼び、生演奏でダンスパーティーを開いたこともあります。お客さんたちはきれいな格好でしたが、私たちは揃いの黄色いTシャツのようなものを着て、裏方でしたが(笑)。

修学旅行は北海道へ行きました。飛行機ではなく電車で、道路もまだそれほど舗装されていない時代です。道南、道中をぐるりと回ったのですが、強行軍で宿でゆっくりお風呂に入らず、自由時間に美容院へ行き、シャンプーしてもらったのを覚えています。